

天声人語

北アルプスをおおぐ小高い丘を福寿草の黄色が鮮やかに染めあげる。長野県松本市の四賀地区は信州でも指折りの福寿草の群生地である。きのうも約2500人の客でにぎわった▼恒例「福寿草まつり」は今年がちょうど25年目。数十万株が自生する段丘を住民らが丹念に整備してきた。草を刈り、遊歩道に木材チップを敷き、案内板をたてる。期間中はそばやカレーの店も出る▼へ地面から宙がはじまる福寿草▼宮坂静生。地面に顔をよせてみると、黄色の花ばかりではない。金色に近いものもある。陽光を吸い込んで体内で濃縮したかのような輝きを放つ▼「北向きの斜面で長く雪の下にあった株は茎が太く、濃い色の花が咲く。あまり早くに日を浴びて咲き出した株はひよろひよろです。花の色も濃くなりません」。まつりの主催メンバーのひとり金井保志さん(70)は話す。幼いうちから甘やかして日のあたる場にはかり置くと、たくましく育たない。人にも通じる教えだろう。へ裏山にゑくぼの日さし福寿草▼成田千空▼この地区は、平成の合併までは四賀村と呼ばれた。養蚕や葉タバコ栽培の農家が多かった。松本市に編入されて、村の名が消える。かつて1万を数えた人口も半減した。逆に増えたのはシカだ。推定800頭が畑を荒らす▼きょうは春分の日。予報によれば信州地方は好天に恵まれそうだ。へ青空の端に出されし福寿草▼千葉皓史。四賀の里ではきょうも、視界いっぱい空の青と花の黄が広がることだろう。